関西自然保護機構会誌 *23*（*1*）：*81－82, 2001*

大阪オリンピック招致委員による説明会に臨んで

有馬忠雄

Impression of the explanation meeting of the Osaka Olympics. Tadao Arima

レガッタコース対象地が既に変更されていること，IOC委員会の評価が思わしくないことなどを考え合わせると些か時期が遅れた感じがあるけれども，大阪オリンピック招致委員会による説明会が催された顛末と説明会に参加しての感想を報告いたします。

大阪オリンピック招致委員会による計画の内，新聞紙上でも問題点を指摘されたのは，大中干拓地・西湖の北に位置する伊庭内湖につながる大同川を対象としたレガッタコース計画である。新聞記事によれば，この計画のためにヨシ群落および水田の多くが破壊されるだろうとのことであった。

早速，対象地の状況を視察した。ざっとしか見ていないが，伊庭内湖の湖岸および大同川岸辺はヨシ群落に被われていた。大同川中流部には大きな「能登川水車」が設置され，カヌーランドと称せられる施設が設けられ，近隣の住民達の憩いの場になっている模様であった。驚いたことに，このカヌーランド周辺部のヨシ群落だけが滋賀県ヨシ保全条例による保全地区とされていることである。したがって，大阪オリンピックで計画された「レガッタコース」予定地は保全地区から外されているのである。

無許可でヨシ帯を破壊したとして告訴された男性の新聞記事などを見て，条例によって殆どのヨシ群落は保全されていると思いこんでいた私にとってこれは本当に驚くべき事態であった。ヨシ保全地区の指定に当たってはいろいろな開発計画の中で配慮されるのであろうが，その実態については周知が必要だろう。保全地区を外れれば，いかに素晴らしいヨシ原も背の高い草が生えるただの草むらに過ぎない。大同川および伊庭内湖開発の計画の中に，保全地区を外してカヌーランド発展の目論見を感ぜざるを得ない状況であった。

現地を見て早速招致委員会宛意見書を提出，さらに，KONK事務局へも「一言あるべきでは？」と連絡した次第である。招致委員会による説明会はレガッタコースが浜寺に変更になったとの報道の後になったが，今年1月27日科学技術センターで開催された。

参加者は事務局のお二人の外に3名，計5名の極めて恥ずかしい会であった。

説明は大阪オリンピック環境計画，特に靱公園で計画されている「靱テニスセンター」について細かく行なわれ，質疑は短時間となってしまったが，資金計画など知ることが出来た。大同川から浜寺運河に変更になったのは宿舎から遠すぎるという理由であったが，ヨシ群落に配慮したとの説明の無かったのは残念であった。また，「もしオリンピックが大阪で開催されなかった場合，開発計画はどうなるか」に対して「開催されなかったらとの考え方はない。ただ，舞州の開発計画が遅れるのが残念である」との回答があった。都市計画の財源という意味でオリンピック開催が不可欠であるのは理解するに難くはないが，オリンピックと開発とが同じ線で繋がっていることに「当た

り前」という気持ちよりもむしろ「不当感」を持たざるを得なかった。

現在，大阪オリンピック開催が危ぶまれているとの報道に接しているのは，開催に反対している私としても複雑な気持ちにならざるを得ないところである。